

鈴木青少年の翼で広がった世界

私は海外に漠然とした興味を持っていました。いつか海外に行き、多くの外国人と交流し、国際的な人材になりたいと考えていた。そんな中、昨年、友人が青少年の翼に参加したことを知った。調べてみると、現地での学校体験やホームステイができることに加え、費用面でも参加しやすかった。それ以来、私は青少年の翼に興味を持ち、来年は参加したいと考えるようになった。

募集が始まり、私は早速応募した。受かるかどうか不安だったが、派遣が決まったときはとても嬉しかった。しかし、出発の日が近づくにつれ、本当に自分の英語は通じるのか、食べ物は合うのかと、不安に陥ることもあった。だが、事前研修で出会った仲間たちのおかげで、その不安は和らいだ。

オーストラリアでは、Lillyがバディとなり、ホームステイ先として私を受け入れてくれた。最初は緊張していたため、自分からうまく話せなかったが、Lillyが気さくに話しかけてくれて嬉しかった。

学校の人やガイドの英語はとても速く、聞き取れないことも多かったが、ホームステイ先の家族の英語はとても聞き取りやすかった。聞いてみると、昨年も日本人を受け入れたことがあるそうで、親切だと感じた。

私のオーストラリアでの一番の思い出は、学校体験だ。私は14~15歳の生徒たちと一緒に授業を受けた。どこの誰かも分からない私に対し、彼らは積

極的に声をかけてくれた。緊張していた私にとって、それは何よりもありがたく、オーストラリア人の温かさを感じた。

サッカーをしたり、ふざけ合ったりするうちに、彼らとの距離は縮まり、仲良くなることができた。中でも、体育の時間に行った椅子取りゲームのような遊びはとても盛り上がり、決勝で名前をコールされたときは本当に嬉しかった。

今回の鈴木青少年の翼事業に心から感謝するとともに、私を受け入れてくれたホストファミリー、送り出してくれた親、そして何より、このオーストラリア団の仲間に出会えたことを誇りに思う。ありがとうございました！

